

和文教科書

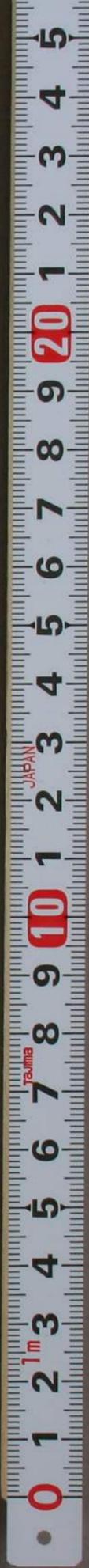
いよいよの日記

三巻

成  
五  
十  
七  
号

共  
八

ホ 2
218
3



源歌子編輯

和文教科書

東京書肆 中央堂發兌

和文教科書三之卷

美濃 源歌子編輯

いとよしの日記 阿佛

むかしうべのなごもりもとめでたけんふ  
みの名の今のそれ人の子ハ、まはけりも、おのう  
へれこごいハ、まはけりけりあみづらきのをり  
のらずとも、かへすくもかきおくとたうふ  
れども、かひなきものハ、おやのいとあなり。又け  
んとうれ人をすすてたまはぬまつりごとともも



源歌子編輯

和文教科書

美濃源歌子編輯

丁

東京大学  
文学部  
図書印

利門  
218  
巻

和文教科書三之巻

美濃 源歌子編輯

いとよしの日記 阿佛

むかし、うべのなごもり、もとめでたりんふ  
みの名、今の世に人の子ハ、あはれりも、あ  
へれこそ、いかに、あはれり。あはれり。あはれり。  
のらずとも、かへあはれり。あはれり。あはれり。  
れども、かひなきもの、おやのいとめきり。又け  
んり、いれ人をすてたまはぬまつりごとともも、も

和文教科書 三之巻

れ、ちうきんの世をねまよなまけもあすてらる  
るもの、かずあぬ、あひとつさりけりと思ひ  
きりあう、又さてーもあうてあほこのうれい  
こそ、やうかこあくかあーけれ。さうい思いつ  
られ、おまとうたの道、たごまことすくなく、  
あぶるすさみばり、とたもあ人もあうん  
日の本れ、あまのいはとひらけーとさより、  
よものかみたら、れがぐのこことばをさうめて、  
世をさめ、ものをやはうぐる、なうたらとさり  
よけるとぞ、この道れい、どりたうら、さうーたう

○けるとぞ

らも、道とりふ  
名詞の、あうん  
きを、はぶきた  
るあり、ととい  
み辞の、けを  
うけ、さうも  
あ、す、す、す、  
十六夜、り、れ、  
も、か、る、こ、こ、  
多し。思ひ、を、  
ふ、べ、う、う、ず、

れよりくる。さて、又集をえくぶ人、ためーお  
ほうれども、二たび、勅をうけて、よ、にゆえあげ  
たる、家、た、ぐい、ま、ほ、あり、か、く、や、あり、けん、そ  
の、あ、と、ま、ー、も、た、つ、さ、け、り、て、み、た、り、の、ま、の、こ、こ  
ども、も、ち、れ、奇、の、ふ、る、ほ、ぐ、ど、も、を、い、う、さ、る、え  
ま、り、あ、り、けん、あ、づ、か、り、も、た、る、こ、と、あ、れ、と、道、を  
た、す、け、よ、子、を、は、ぐ、め、ほ、の、ま、を、と、へ、さ、て、ふ、う  
き、ち、ぎ、り、を、む、す、ひ、た、う、れ、細、川、の、あ、う、れ、も、故  
なく、せ、き、と、め、う、れ、か、が、端、と、あ、の、り、れ、ど、も  
ー、あ、も、道、を、ま、ま、り、家、を、た、す、けん、た、や、こ、の、命、も、

和文孝和言 三十一卷 二〇

もろともい、きえをあしき、年月をうてあやふ  
く、心ぼそきものか、うなふもして、つれあへけあ  
までいあ、うしん、きかぬ、めい、つ、わ  
もくたもいすつれども、子をあやふ、心のやこ、  
まほ、志のひが、く、道をかへりみる、う、み、わ  
らんか、さ、く、も、てもまほ、あ、づまのか、め、鏡に  
うつさ、づ、く、ぬ、か、げ、も、あ、う、は、く、と、せ、め  
てた、も、い、あ、まり、て、茶、の、は、び、かり、を、と、れ、か、を、よ  
う、ま、き、もの、い、あ、は、て、ゆ、くり、も、さ、く、つ、ま、よ  
ふ、月、よ、さ、は、れ、出、る、ん、と、ぞ、た、も、い、あ、う、あ、る、と、

りとして、文屋のやすいで、う、さ、さ、し、も、あ、う、す、ほ、む  
べき、ゆ、も、と、じ、う、も、あ、う、す、こ、ろ、か、こ、を、た、つ、は  
ど、め、た、や、る、れ、が、ふ、り、み、あ、う、ず、え、す、あ、も、た、え、ず、  
あ、う、い、ま、ほ、あ、木、の、葉、さ、へ、あ、み、ご、と、も、い、み  
だ、れ、ち、り、つ、い、こ、と、に、あ、れて、心、ほ、そ、く、か、あ、け  
れ、ど、く、や、り、あ、ぬ、道、る、れ、づ、う、う、と、も、い、  
ど、ま、う、い、ま、ほ、あ、う、で、何、と、な、く、い、そ、ま、た、も、ぬ  
め、か、れ、せ、ご、り、つ、う、ほ、ど、だ、に、あ、れ、ま、さ、り、つ、う、庭  
も、ま、か、き、も、ま、て、と、み、ま、は、さ、れて、ま、さ、り、ほ、け  
る、く、こ、れ、袖、の、ま、づ、く、も、な、く、さ、め、か、ね、た、る、中



弁まゝ土佐日  
 社にけ歌うひ  
 ころもかへ  
 せんじとあめ  
 たかかへ  
 さいひをうへ  
 さうまごみか  
 つうごくあ  
 んいかよぞや

このかへり事いともあけけれはむやうあ  
 はれさうもむむのくにきうせなまじり  
 たくて又うもほたれぬ大夫れかいは  
 ずなれきつるさうすてられあごりあ  
 からい思ひきりてあおひきりあれは  
 はらぐともあさきとあはらぐは  
 とかえつけいり物なりことあはれまておな  
 つかさういりあそい  
 つくぐとあさきとあはらぐは

みちとほくともはやううらこ  
 とぞあぐさむ。山よりきうのあにのりし  
 いでたちみむとておはたりをいし心ほ  
 そとだれいたるをこのあひどもをみて  
 まかきそり  
 あだよのこあむかへり  
 心れゆきてたちらうらほ  
 とハこといみながり涙のこほを  
 うま物いいまきうをすもまぐ哀なるを  
 ぶりのきみハ山がうてけ人よりハ見なりけ

たびのみちれきつべし送りまらんとて、おし  
るめをこのまなうひよ、又まづらはざらんや  
ハとてかきつく。

たちそよぶうけりうらるる 寝ころも

かこみよたのむ親のまもりハ

女子ハ、あましもなり。たびいよりうて、びごろち  
うきほどの女院まきうい給女院のひめ宮一  
ところ、うまれたまあげりうて、心づらひも、ま  
こときまうて、おとまりくおはすれハ、宮の  
清かしのこひも、かねて、おおくついで、侍

従太夫などの事は、ぐくとおぼすべきより、こ  
まうにかきつけて、おくに、

君をこそあさむとたのめを、ついに

のうたで、こおに、かすすな

とぞえたれハ、清うけりも、こまやういとあは  
れよかき、奇の海一よ、

おもしおく心と、めづらきもの

きもよめ、うれ、やまとなで、こ

とぞある。三りのこども、奇のこりま、かきつ  
つきぬも、かきつ、いとま、かま、れど、おわ





いまおちきふそのせきや、このほどの  
まぐれもつきも、うよもも、

関より、かきく、つふあめ、まぐれは過て、あり  
くせが、道もいとあ、くて、心より外は、かきぬ  
いのうまやと、いふ可、よ、くれを、ねど、と、ま。

たび人、みの子のうちは、いふゆゑ、まぐれの  
あめに、おどる、かきぬ、いの里

十九日、又、こ、を、い、で、ゆ、く、よ、も、す、う、う、あ、り、つ  
う、宙、に、い、ら、れ、と、つ、お、い、ふ、様、の、み、ち、い、と、い、ま、り  
くて、人が、あ、ぶ、く、も、あ、い、ね、ば、水、田、の、お、も、ま、ぐ、

さか、う、う、ま、り、ゆ、く。あ、る、ま、い、あ、め、い、ふ、  
ず、ま、り、ぬ、ひ、つ、つ、か、さ、す、ぎ、ゆ、く、道、よ、め、い、た、つ、お  
し、る、あ、り。人、よ、と、い、ふ、む、す、ぶ、の、神、と、ま、い、こ、ゆ、  
とい、い、ば、

ま、れ、た、び、ち、ぎ、り、む、む、の、神、ま、い、  
と、け、ぬ、う、う、み、よ、い、れ、ま、い、は、さ、で

す、の、ま、い、と、つ、お、い、ふ、川、よ、い、舟、を、あ、い、へ、て、ま、さ、  
き、の、つ、ま、も、あ、い、ん、か、け、と、め、い、る、う、ま、い、  
あり、いとあやふくれど、い、る。この川、つ、み、れ  
う、い、いとあ、く、て、か、い、い、あ、い、れ、い、

かこぶられあきこころありあづ  
くめづみいさぞせつし  
かりのふれゆきとみるもほろも  
力をうきあねのうきはし  
とぞおといつけ。又一宮とふちを  
すぐとて、

一宮名さつまつふたつあ

三あきのりをまもるあづ

二十日をけりの國おとつうまをゆく。  
よきぬさるればあつたのちへまわりてす

りとりいで、かさつけてたてまつる奇

いのぞよまおことさるみ

かこいくまほも神のまたく

たうまがとわりの満うせへてす

たまにこころにかもせうく

みつーほのてぞきつるあみ

神やあはれとみるめたづねて

あかぜも神のこころにまうす

まがゆくまきのさけりあす

まらひのちとるればさけりなく、いかをゆく

そりーも、濱ふるま、とおほく、さしださてゆくも、  
さるべ、うかふる、さしーて、

濱ちどりあきて、うささ、よのあつ、い

あととめん、と、おほ、は、う、りー、を

す、う、だ、川、の、さ、し、り、い、こ、そ、あ、り、と、う、り、か、と、み、や  
こ、ど、り、と、う、さ、も、の、は、ー、と、あ、ー、と、あ、い、ま、い、こ、の  
浦、も、あ、り、く、り、

こ、と、ー、は、こ、は、ー、と、あ、ー、と、い、あ、う、り、り、ー

う、さ、さ、す、む、か、い、の、さ、し、り、い、か、せ

二、び、う、さ、さ、こ、え、て、ゆ、く、い、い、い、も、野、も、い、と、さ、ち、く

て、日、も、ら、れ、は、て、ぬ、

は、ら、ぐ、と、二、び、う、さ、ま、ま、を、ゆ、き、ま、い、て

あ、ち、す、あ、つ、た、さ、る、跡、の、ゆ、さ、り、

八、橋、よ、と、い、ま、う、ん、と、い、う、ら、く、さ、い、は、い、は、ー、も、み、え  
ず、あ、り、ぬ、

と、ー、が、よ、の、く、ま、で、あ、や、さ、き、ハ、橋、を

タ、ら、れ、か、け、て、さ、し、り、あ、ぬ、う、さ、

サ、一、日、ハ、は、さ、い、で、ー、ゆ、く、い、い、と、さ、ち、は、れ、た  
り、い、も、と、さ、わ、き、け、し、跡、を、お、ゆ、く、い、い、つ、つ、が、い  
あ、り、て、も、み、ら、い、と、お、ほ、き、い、い、も、む、う、ひ、て、ゆ、く、海

はつれあきあひくら葉にうめおしつけり。まきは  
まども、ままりてあまごうれもまきさなる  
こらすくよとくさざれよ。

まぢれけりまきふのほやま  
もみぢのまき色あはれ

この山までむらみこらするにら  
へはねば。

まちけりあむもこえま地

たましむのめぐりあま

山のすそ野にたけのあるあまかやのいつみ

ゆ。いよしてあまのたよりにかくてすむ  
んとゆ。

ぬちたれ山のすそ野にやどめて

あしりさびきたけの一むら

日、いりけり、あほ物のあまも、ぬほど  
よ、さうととやふ、あまごまりぬ。

廿二日のあつつき、夜がうきありあけのかけよ  
いで、ゆく。いつよりも物ごた。

まみまいて月のまやこいで  
うきかほるれぬありあけのかけ

とぞだもいづらる。ともなる入ありあけの月  
さへかききこりといふをききこりて

たび人のたき道ちいづつむ

かさうちきしるありあけの月

たうの心もこえは。うみもあほどいとたも  
しる。浦うぜあれておのいづきすぐく浪い  
とたう。

月がたみや浪もたうの浪きし

うでのみさとの波ちやすままで

いとちるきさぎいぐるきしりせむれあはる

はうといふとつちかけつ。

きし浪にすまのいろあつてきしつる

あでのおよばぐあふかきてま

たまあのはしりみわとせがかもめといふる  
いとたほくとびちういで、水のそこへもつる、岩  
のうへもみこり。

かもめあつてすまのいはもようそあらず

あまのかけこす袖にみまはれて

こよひいひくまの志ゆくとつあところろにとい  
まる。このでころれ、大方の名をばはま、松とぞい

い。き。と。い。い。バ。り。の。人。こ。も。も。ず。む  
可。き。り。も。み。こ。人。の。お。も。か。げ。も。ま。ま。ぐ。思。い  
出。り。て。又。め。ぐ。り。あ。ひ。て。み。つ。る。命。の。ほ。ど。も。か  
へ。も。ぐ。あ。は。れ。さ。り。

淡。ま。つ。れ。か。は。ぬ。う。げ。を。た。ら。ね。き。て

み。人。さ。ら。む。う。さ。ら。と。う。

う。の。世。に。人。の。こ。う。ま。ご。を。ど。う。い。い。で。あ  
い。ま。ら。ふ。

廿三日、天りうのまじりといふ。舟にのるに、西行  
がむうも、だもいいて、うられて、いと心ぼそく

みあはせしる舟、たゞ一つまで、たほくの人はゆ  
き、に、さうらひまもな。

こづのあま、れうき世よ、わらうほ、まきみよ

とや、津の小ぶね、さきもやすめず

こよひ、とほつあ、あ、えつけの里と、つゝ、あ、  
と、まる。さとあれて、おねさ、う。か、は、ら、よ、水  
の、み、あり。

たれ、き、て、え、つけ、の、さ、と、ゆ、か、よ

いと、だ、び、ね、ぞ、や、ね、さ、ら、う、き

廿四日、ひるにありて、さやの中山こゆ。このま

まとうやいふやろれほどもみぢいとたか  
ろー。心陰まであつてもおぼばぬるめり。ふうく  
いつまゝに、まらちちれぬつゞきごとらふは  
ず、心ぼそくあはれなり。ふもとの里に、きく川と  
いふあふとぐまる。

こえつゝすふもとのととのゆふやまに

まつうせにくもやれ中やま

あうつきなきいで、これ月もいでにきり。

あつむかふもやのきつやまこえぬとい

うやこいづげよありあけの月

河ねといとすご。

あつむとねいやはかけー東流よ

ありとほつかりきく川のあり

廿五日、きく川をいで、けふは、大井川とよ河  
をまじる。水いとあせて、きく川は、たぐひてお  
づいあし。かほつ、いくりとらや、いとほつ、な  
り。水のいでたつむねもかけ、たけはうら。

たもいづつみやうのこと、大井川

いくせの石れうずもたうば

うつやま、こゆるほどよ、あがりのえきり

たつ山あり、けいあいにしり。まゝも人をさるとむづ  
とからせとまねひたうん、こゝちうていどめつ  
うよ、たうくもあはれもやこくもだぼゆ。  
いそぐ道なりとつ、又もあまこハえかす。  
たぐ、やむごとあきところ、いとつまぞだづれ  
ゆゆゆ。

かまごうこるうつ、ともあううつの山  
まゝもとほきむうけいよして

つたうへてまぐれぬいませうつめ山  
何んかまむに袖のいろそこがう

こふいびてごうといふところ、いとまゝ。たうよ  
かゝの僧正とやの、れぼるよていと人まげ。  
わどかり、うねたりつれど、まもつに人のなきや  
どももありけり。

廿六日、まゝまな川とや、まゝりてたきつれ、  
ま、うちいつ。なまぐい、いで、あとの月影まどま  
づたまいいでらる。ゆるまいりたる、あに、あや  
きつげのをまらうありいとらうければ、うち  
ふーたらに、まぐりもまゆれば、まらうれまやう  
ドに、ふーまらうかきつけつ。



へば、さだうふうたわぶ人ごいあー。

たが、方にあひきはて、う富士のねれ

けがりのすきのみえずなるしむ

古今の序れ、と集まて、たもい出られて、

いつの号れふもめちり、うあーのねを

ゆき、さくたつきやまよあーとて

くらけてしたるか、のはまじくうばや

こよひ、あらのうくといふあよやどりてあれ

たかたと、さうにめもあはず、

廿七日、あけとあれてのち、うづ河さる。あや川

いととむーかどふれば、十五せをうわたりぬる。

さえわびぬ、重よりたるをもふーあの

川かぜこほる冬れ、このもて

けあ、目、いとうら、かまて、たごの浦よ、うらひ

づあま、もの、いさりするをみて、

心かう、たつたごのあま、ごらも

ほ、ぬらうみと人い、さるな

と、う、はまほ、き、いづのうわといふ、あに、とご

まる、いま、ご父、日のころ、ほと、みーまの明神、ま

あつとて、よみてたてまつる。

あはれとやまの神のなほはら

たぐい、まもめぐりきんぐり

たのづかうつたへあともあるものを

神い、まもるしきまのまも

たづねきて見、くえかふるはこね路を

やまのかいあるきつるべとがあま

廿八日、いづのこまをいで、はこねちにかふる。

いま、おふりりければ、あまのまもる

まもるへげと、おのやまを、うげとも

あーかろいさ、みちとほりとして、はこね路よか、  
るなりけり。

ゆい、まもるしきまのまも

ぶうい、まもるしきまのまも

いと、まもるしきまのまもるしきまのまも

りが、まもるしきまのまもるしきまのまも

はて、まもるしきまのまもるしきまのまも

こと、まもるしきまのまもるしきまのまも

とつ、まもるしきまのまもるしきまのまも

なすすなむりといふ。

あづまられゆきまこりてこわんせ

ふほはまらうくはわりのこづ

ゆきより浦よいで、日くれかゝるになむと

まるべき、あまほし。伊豆れ大ままでみさるそ

う海づしをびづことういふと、うびきりた

る人もな。あまの家のうらある。

あまのすびうの里の名もきうなるの

まりこ川といふ河をうらうくしてたたりと

海のうへをけ  
をもよりま  
にまらふを  
うり。よのつひ  
のふもあま  
思ひたがふべ  
うら

る。こよいかにうはとこふあはとまある。あまは  
かまくらへひるべしといわたり。  
廿九日、さうはをいで、浪路をけうぐとゆく。あ  
けとあう、うみのうへをいとはそき月びでた  
り。

浦路ゆく心ぼろを波まより

いで、さうするありあけの月

なまきさいよせうくら浪のうへまきりならてあ

まありつるはりあねみえすさうね。

あまふ海こぎゆくかこをみせうら

浪よたらしき浦のあそびや  
みやことほくへたりはてぬるもなほまの心  
ちりて

まはあれどもうきさるゝかけもせ  
むらゝのくればなる世あらば

あづまにてすむ所は月かけのちつとぞいふな  
らうららうき山もとて海いとあゝ山寺の  
かさはらあれはのどかやすごくてあまのたと  
ねの風たえずみやこのねとづれはいつらた  
ぼつうふきはともしも一つの出までゆきあひ

たりし心ぶりのたよりいことづけやたりし人  
のまもとよりたしうきふたよりにつけてあり  
しはえととおぼしめて

たびごろもあまをそつてうつ心の  
ぶぐれぬいまもやぞ

ゆくりまゝあくがれいでいさよいの  
月やおくれぬうらみあるべき

みやこをいでしことハ神無月十六日たりしが  
バいさよ月をおぼしめわもれりけり  
ちといとやとくあはれまでたゞこのえ

ぐりりをぞ、又きこゆる。

めぐりあふすあまのついでに

やまうらけいさよしのつき

さきのういやうあれうも、ためおりのけ、津女、奇よ

ひんきて、ちよくせんも、たびぐり入たまへり。

大宮院の権中納言ときこゆる人、奇の事、ゆゑ、朝

タヤ、あれいづまや、道のほごの、おぼつ、うらまへ

なご、だづれたまへる文に、

はるぐと、おれいこそ、やれたびぐりも

ちよび、きぐるい、はるやい、うよせ

うへい、

おれい、やれつゆも、きぐれも、いと、うま

は、ゆき、けい、袖の、づくま

け、せうとの、ため、うねの、君も、おま、ま、い、おぼ

つう、ちよき、まご、かき、て、

あ、さ、さ、い、す、あ、た、ち、一、寝、ぐ、り、も

ゆき、ま、わ、い、と、ぐ、さ、え、ま、さ、ん、し、ん

返し、

たびぐりも、浦、せ、え、て、神、無、月

一、ぐ、り、ま、ら、い、ま、ご、う、り、ま、ら

ときうんもんみんれみくーげどのときこゆる  
ハこごれ太政大臣の清女これも續後撰より赤  
つゞき二たびこごの家のれうらぎもも、歌  
あまこいり給へる人あれが清名もがくれなく  
こそハいまハあんかもんわんに清かこてさ  
ぶくいたまふ。あづまぢらねい立ーあすそてま  
うりやれごーに、小白川どのへまわりーかどみ  
えさせたまはごりーかばこいばりの出た  
ち、物さうりすて、かくとだまきこえあへずい  
そぎいでりも心まかり給ひておとづれき

こゆ草の枕まぐう、年さくくれぬ、心ぼそとゆ  
きれひまなごふど、かきあつめて、  
きえかへりまぐうひくうもかきされて

ほごハくもあぞゆきにさりゆく  
なごきこえたりーを立かへりどの清返事だよ  
りあごバと心にうけまわらせつるをけあハ出  
さすの廿二日、文まらえてめづりーくうれーさ  
まづ何事もこまかよ中たくはにこよいハ清か  
た、ごへのきやうごうれ清うへとてまぎるハ  
ほどよておもあばりもいりバとほいさうこ

そ。清らびあすとして清まありありけり日しもみ  
ねどの、もみち見えよとてわらき人、とそいよ  
しほども、ほろしそ、かゝる事ども、きこえはしり。  
まどわくとも清たづねいほざりし。

いとかゝに袖やぬれまゝ旅ごらも

たつ日をきぬうしみありせば

とてもそれより、雪にありぬくとたゞしうり  
清返事、

かゝるうらみかゝるうらみのあつめも

ほろいともわれあはれをぞしる

と、あれびこのたび、又たつ日をきぬとぬとある  
清返しほろいをぞきこゆる。

心うらなようむいんたびごらも

たつ日をだもきこむがほめて

曉たよりありとき、てどもすが、おきめて、都  
の文どもかく中に、ことよへたてなくあはれよ、  
たのみうばし、あね君よ、をなまき人の事、  
さまぐにかきやるほど、れいの浪風ばぐ、き  
こゆれば、たゞいまあるまゝの事をぞかきつけ  
ける。

夜もすがらあはれもあはれもかたあらず  
いづこすまみよいとりおきかて

又おきまよて古つよいしおのぶたより  
とのあまうへもふとたてまつるとしていそも  
のまどのぼくもいそつみあつめて

いづこよめかりきほやくすまじも  
こじりやまれ一里れあまじと

ほどつこのおとといふたりれか入りごとい  
とあはれまていれがあねぎらみ

たまつをみらにあらぬのかきうか

いそすなはれいそすなはれ

このあね君の中のおんれ中將とすえ一人のう  
へるり今三位入道と。たあせあづくとほ  
ざりはてたこあひるる人あり。そのおと  
うとのきこもめかりきほやくとあふる事いま  
ぐよかきつけて人こつたうのうの都  
もまらうのきこにたへてなごちやくか  
きて

もろともいめかりきほやくうもあはれ  
中一袖にゆかかけし

この人もあんなもんにさびしいさあつ  
つましくすることをもさだめいつしおてか  
たるもいとあはれもたうほごるく年くれ  
て春もあやうかりかすこもゆるながめ  
たどくしを谷の戸にもありなれどもうご  
すれもつきたもたづれこずなれいなれ  
しはるのやまのびがくむうのこいしき  
ほごうも又みやこのたよりありとつげたる  
人あれはれいのあつしれ文かく中にいよ  
月とおとづれたまうりし人の涙もあつ

おぼろある月みやこのやまあつ  
まぎきうづりしなまのよるく  
などそはつとあまき事いもをかすゆえたり  
をたにかさるあよりつたはりて清く入りごと  
をいつうほごもしすまぢみたてまつる  
ぬるれどなみやこの月をたにうて  
あれぬまらうのなまらうく  
権中納言の君はまぎらふことなかくうたをよみ  
たまふ人なればほごてあつひよきうらな  
もかきあつめてたてまつる海ちうきあるれば

かひるどひろみおもぢるのほもあしねな  
 ほなきこころしなごかひし  
 いづいてきほしきもあし  
 あらひいまあへわれづこころ  
 きりりー浦やまかせもうめが  
 うやこいほゆるはらのあけぼの  
 はちぐりなごめてこころ浦うせ  
 かすこたごめはるめ月  
 あづまぢれしきもあせめなま  
 なごさく花のたもかぢまた

みやこ人もいもいであづまぢれ  
 花やうもたづれてま  
 などたごめまかせてたもあま  
 たらつういとてかきこもあ  
 へずるしりーなまこ目ごりれ  
 この文いかすはれぬらう  
 たのむごよきういよいろ  
 かいあるあらのたごらか  
 くらべえよかすのうられ  
 せんぬこころいおたご

まゝなるものいろもいとついでなるを

たもいやはさへおまうげよたう

あづまられさうをみてもるをいずが

みやこのはあましくわとよま

やよいのまついんわうくーきさうはやみよ

や、日まぜよおんこと二たじよなりあや

う、きまんとてしるふうーあづー二たじよなる

づき、あうつきよりおきかて、佛のほまへうてい

ま一うーてほくあきやうをよみつ。そのきうー

うや、まごりもあく、たううをりくもみやこの

たよりあれが、かつ事こそあど、あうはつ

げやう、ついでよ、れいの権中納言の御もとた

びのやうて、あやなきほごの心ぼくをもよま

いたもつ、清法のきうーま、けいまで、かけと

どめてと、かきて、

いづつよあまのきうやくけがりとも

たれう、いみまーかせよきえちま

と、ゆえたり、をだうりあてが、へーとくまうた

まへり。

キこえもせーわりの浦路よ平をへて

いづりきそつらあまのもほ火  
沸きやうのきういといとたわとて

たのもかおにそよもせありまわ  
たへるるのりれはのちぎり

卯月のほづめつらたよりあれび又おさどく  
の沸はつごのけさつれいしそまどかき  
て

えーそそかほーぞろめられはて  
やのけらよりまつにうつるこすあも  
なごらもほやたちかへてみやこびと

うたうーまたまうーとほいーがけ  
うたうー又あり。

くもあもごうみーまにかほーねど  
ありーまほぬーのーて

さてほーまの沸たづねー  
くもあもごうみーまにかほーねど

たごーるをけあぞやつ

さねかろの中將れ五月までびるきうでみせられ  
くいよりいやこよいきーあつたーん郭とせき  
のこあされかそつけれとらや中せれたる

ことのみある。そのためと、たもひいでられて、  
この文こそ、ことごとく、やゝくなど、かきて、たごせ  
給へり。さうほど、卯月のまに、なり、けれ、ば、ほと  
と、むす、れ、と、つ、き、ぼ、め、の、う、も、も、た、も、ひ、た、え、り、人  
づ、て、よ、ま、け、ば、い、き、の、や、つ、と、い、つ、お、よ、あ、ま、と、を、  
あ、き、け、る、を、人、ゆ、う、り、あ、ご、い、お、を、き、こ、て、

志のいぬ、い、き、の、や、つ、た、る、郭、云

や、あ、い、た、う、く、い、つ、た、な、か、ら、し

な、ど、い、と、り、た、も、へ、と、も、その、か、い、も、あ、い、も、よ、  
り、あ、づ、ま、ら、み、ち、れ、お、く、ま、ご、て、む、う、り、時、島

まれ、あ、つ、あ、り、い、ろ、や、あ、り、けん、一、す、ぢ、ら、に、又、あ、つ、  
ず、ば、う、ま、れ、ま、も、き、く、人、あ、り、け、る、と、人、ま、き、  
一、け、う、よ、と、心、づ、く、一、い、う、め、け、れ、又、く、と、  
く、も、ん、あ、ん、れ、新、中、納、言、と、き、こ、ゆ、ら、い、京、極、の、中、  
納、言、定、家、れ、ゆ、い、も、あ、あ、つ、つ、の、ま、ま、の、高、宮、と、  
き、こ、え、い、ら、ら、の、中、納、言、れ、ま、あ、つ、せ、け、き、た、ま、  
へ、ら、ま、い、ま、て、年、へ、た、ま、い、う、け、り、此、女、あ、ん、の、高、  
宮、の、侍、子、に、志、た、て、ま、つ、り、た、ま、へ、り、一、か、ば、つ、た、  
け、り、て、さ、う、い、給、お、さ、り、う、き、か、う、う、か、い、も、か、  
り、あ、ら、ど、よ、み、た、ま、へ、り、一、民、部、卿、の、す、け、の、せ、り、



りたづねて、うへりごとくたまきりせしむるも、まの  
びたまへりしも、むりかゝりありしなり。

あつまぢられしものまじりしを、かゝれど

かゝれど、ちりきいし、このゆめ

いづくよりたゞいねの、まゝかゝりしん

にもいおきつるつゆを、たづねて

まどのたまきり。あつのはほど、あやまきまでお

とづれも、たえそ、おぼつちを、も、かゝりしん。

都の方、まじりの浦浪たち、山、三井寺のまじり、ま  
ど、ゆめも、いし、たづねつちを、かゝりしん、てハ

月二日、つらひまらえて、日ごらり、たきたり

け、人々の文ども、とりあつめてみつる。まじり

のさい、まじりの君のもとより、五十首の歌をよ

みたり、け、まじり、かゝり、あへず、まじり

たる、まじり、い、た、まじり、に、けり、五十首に、十

ハ首、てん、あ、い、ぬ、ま、あ、や、く、心、れ、や、ま、の、い、ま、

め、ろ、を、あ、ら、う、め、その中に、

心の、へ、だ、て、ず、と、ま、た、び、ご、ら、も

と、あ、ら、ま、を、み、る、に、た、び、の、ま、を、思、い、お、う、せ、て、

よまねたるよこそいと心をやりてあはれなれ  
ばその歎れうさほついにむどちいさく返事をど  
かきまつてやる。

こいさめがこころやたぐふあそゆあは  
ゆきてはうへるをられまうくも  
又だまづたびのたいまて、

かりそめのくらんれまうくのようあつと  
おもしろやうも袖づつゆけき  
とあるおにも又うへりごとまきぞかきまつたる。  
秋うらきくらゐのまういさしげなく

ありすゝこころまじのねを  
又この五十首れ奇のおくに、ことばをかきま  
大かく奇のまままどまうつけておくにむら  
ーのくこれ奇、

これをみがいづらうとたぬいづ  
人よかたりてねこそまうれ

とかがつくまうのおととたぬむりの君れ  
もとよめも三十首の奇をおくりておれよてん  
あいてむらうらん事をこまかよまうたべと  
いさしつり。ことば十六ぞかー奇のくらまれ

バ、ヤ、ク、た、ほ、ゆ、る、も、ほ、す、へ、い、の、お、ま、か、  
た、は、い、い、く、ま、し、こ、れ、も、た、び、の、奇、よ、ら、い、お、ま、い、  
を、お、い、て、よ、み、う、け、り、せ、し、め、ゆ、わ、ら、い、お、ま、い、の、  
は、つ、ま、い、ご、の、人、こ、れ、も、と、く、し、は、い、お、ま、い、  
よ、ま、れ、た、り、け、る、ま、め、り、

ま、わ、れ、い、の、け、が、り、を、み、て、も、あ、が、  
こ、ろ、お、ま、い、の、い、い、い、い、い、  
ま、い、い、い、い、い、い、い、い、  
か、り、お、ま、い、ま、わ、り、い、て、も、お、ま、い、  
お、ま、い、を、い、い、の、け、が、り、を、み、て、

ま、い、権、中、納、言、の、君、こ、ま、わ、り、い、文、か、き、て、お、り、た、  
ま、い、い、は、い、お、ま、い、も、ま、く、て、お、ま、い、を、り、て、い、い、  
い、お、ま、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
あ、い、め、あ、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

あ、い、お、ま、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
こ、の、お、ま、い、も、お、ま、い、の、い、い、い、い、い、い、い、  
て、

か、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

みやこの音ども、このほ、おほくつもりたりまへ  
かきつくべし。

○本書、此次に、長歌やうれいと長やうたる  
歌ども、奥書やうのかきものあれども、和文  
に用るけれど、今ハはがきつ。

和文教科書三之巻 終

